



論点整理

第四章 情報活用能力の抜本的向上と 質の高い探究的な学びの実現 ⑥

質の高い探究的な学びの実現 ④

5 「学習の基盤となる資質・能力」の整理

◆ 「分かりやすく、使いやすい」学習指導要領を目指すため、各教科等の学習の基盤として、発揮可能な資質・能力を明確にでき、教育実践に落とし込める具体性を有したものに整理すべき

➤ 問題発見・解決能力については、「学習の基盤となる資質・能力」としては示さない。その上で、総合の目標の学校段階に応じた示し方を検討する中で、問題発見・解決の要素を重視するとともに、各教科等の学習の過程で問題発見・解決が重視されることを示すべき

➤ 情報活用能力については、今般の情報教育の充実を契機に、学習の基盤となる資質・能力としては「情報技術の活用」に絞って示すとともに（「情報の活用」は各教科等の特質に応じて指導）、各教科等のみならず、探究的な学びを支え、駆動させる基盤として位置付けるべき

➤ 言語能力については、全ての学習を支える基盤として重要な役割を果たしていることを踏まえ、現行の整理を前提としつつ、見直しが必要な部分がないか検討すべき



正しい行いは必ず人の心に響く

徳は孤ならず、必ず隣有り。

（訳）徳を身に付けた人は、ひとりぼっちにはならない。必ず隣に寄り添ってくれる人が現れるものだ。

出典：「壁を乗り越える論語塾」安岡定子著（PHP研究所）